

ICTを活用した観光案内サービスの提案

- 観光案内所のIT化によるサービス向上を目指して-

プロジェクト代表者: 社会情報学科 深田 秀実

1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトは、深田ゼミ所属学生が主体となって、ICTを活用した新しい小樽観光案内サービス(小樽みらい観光案内所)を提案しようとするものである。

従来の観光ガイドブック等にはあまり掲載されていない観光資源なども提示できる観光デジタルコンテンツ(写真データや地図データなど)を作成し、大型タッチパネルテーブル(X-infoテーブル)を用いた観光案内所のIT化サービスを考案する。

2. 具体的な取組内容

本プロジェクトの具体的な取り組みを以下に述べる。(1)当ゼミ学生が主体となり、小樽市内の観光資源を調査し、その内容をまとめる。(2)調査内容をもとに、デスクトップ型ユーザインタフェースを持つ大型タッチパネルテーブル(X-infoテーブル)を用いて観光案内を行うことができるように、デジタルコンテンツ化する。(3)評価被験者に対して、考案したサービスを試行し、評価してもらう。

X-infoテーブルは、スマートフォンや紙のパンフレットよりも魅力的な写真を観光者に提示することが出来る。また、パンフレットの文字が小さくて見えにくいという問題点に対する解決策となり得る。



図1: 小樽みらい観光案内所(仮称)
(X-info テーブルを用いたイメージ)



図2: X-info テーブルを用いた
擬似的観光案内の様子

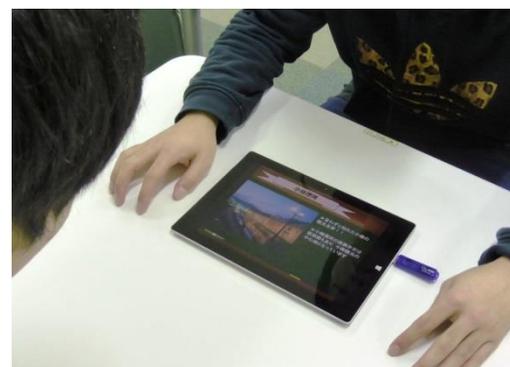


図3: Tablet 端末を用いた擬似的な
観光案内の状況(比較評価実験)

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

X-infoテーブルとタブレット端末(比較評価用)を用いて、仮の観光者として協力してもらった被験者(20歳代5名)に疑似的な観光案内を行って、5段階評価の調査票に回答してもらった。

その結果、X-infoテーブルの大型ディスプレイの魅力や視認性の良さが効果的に働き、全体として、X-infoテーブルのほうが良い評価となったと考えられる。

今後は、X-infoテーブルとモバイル端末(スマートフォン等)との連携を考慮していくことが望まれる。

比較評価実験の結果 (X-info VS Tablet)

